

主張 時代を楽しむ たくましく学び続けます

図書館笑顔プロジェクト代表 長谷川豊祐

1. なぜ学ぶのか

学びの習慣化：生涯学習(社会教育・家庭教育) = 就学前 + 義務教育 + 高校・大学 + 社会 + 退職

苦しさ 9 割 + 楽しさ 1 割 = 爽快感 120% < 不安感

2004 年から大学院ゼミ参加を継続して 21 年目 > 大学まで 16 年間

- 賢くなりたいから、良い社会生活をおくりたいから、何よりも知りたいから。
- プログラム(p.22)「漠然とした不安と大学院での学び」に書いた通り、不安を何とかしたい(後で考えれば課題解決)ので大学院に入った。家庭の理解、学費、人脈、学びの継続があって実現した。
- 現在の興味：公民館と町内会について、ポイントカードやカード決済について(特にTポイントカード)、大学図書館の発展、情報リテラシー支援と地域資料のデジタル化 ※海保英孝. ポイント・プログラムをめぐる経営の諸問題について. 成城・経済研究. 2010, no.187, ※多井剛. 共通ポイントカードによる顧客情報共有化. 商大論集. 62(1/2) ※依光朋子ほか. 図書館来館者数の増加を目的としたポイントカードの導入. 高知リハビリテーション学院紀要. 2013, 14,

2. 本と大学と図書館と

BIG EGG に連載エッセイ 新年に 37 回

異業種・関連業界の交流を進行中カード

- アカデミックな学会発表や学術論文の経験から、ライティングが大きく変わった

3. 図書館笑顔プロジェクト

6 名の固定メンバーで 6 年間 50 回開催

- チームでの学び：書店企画部門、情報企業人事部門、大学事務局長、大学教員、在野の地域学研究者
写真集編集 2 冊、論文 3 本、ブックレットを準備中

プロジェクトの背景と目的

(1) 背景

- 1)2000 年以降、読書推進、教育の質向上、地方創生の場面で、本、図書館、大学への期待が高まっている。
- 2)ところが、関連業界は従来の運営の枠組みを超えることができず、社会の期待に応えきれず、異業種参入に席卷され、本や図書館や教育の本質が揺らいでいる。
 - ・公共サービスや図書館業務への委託化と、総務省誘導による指定管理制度導入
 - ・スマホや SNS などの新しいメディアの台頭による出版不況
 - ・文部科学省や総務省の主導による大学・自治体改革、本は手付かず
- 3)業界の役割や機能を再構築するため、少人数のユニットによる課題の整理と、課題解決の検討が必要である。

(2) 目的

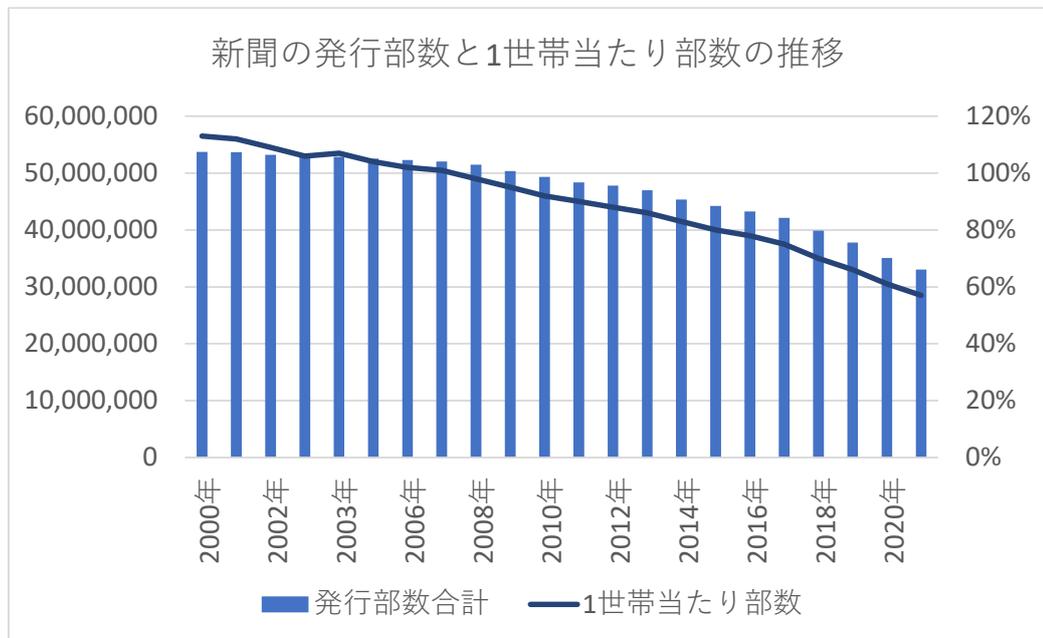
- 1) 本、図書館、大学とは何なのかを、社会や時代を反映した文脈の中で意見交換する。

- 2) 意見の交換や、問題意識の共有により、業界の課題を整理する。
- 3) 業界への具体的な貢献策を検討し、ユニットのチャンネルを通じて実行する。
- 公立図書館における情報リテラシー支援と地域資料のデジタル化. 図書館評論. 2021, no.62, p.74-87.
- 公立図書館におけるリモートアクセスでの商用 DB 提供の展望. 図書館評論. 2020, no.61, p.3-21.
- 未来の図書館：調査する住民の立場から. 図書館評論. 2019, no.60, p.54-75.

4. 学びとは何か

これからも逆境を楽しみ、95歳で往生するまで学び続けます。

- **メタ認知**：“人間には、自らの認知活動それ自体を認知する心の働きがある。これが「メタ認知」だ。私たちはメタ認知を働かせることで、判断や推理、記憶や理解など、あらゆる認知活動にチェックをかけ、誤りを正し、望ましい方向に軌道修正している。メタ認知を意識すれば、大人の学習力も上げられる。” 各章タイトル：**●年齢に関係なく、誰でも賢くなれると信じるのが第一歩** ●メタ認知的知識を獲得するほど、学習力を高めることができる ●自分をよく理解することも、学ぶ力を向上させる ●「失敗」はメタ認知の母である **学びの主演は「自分」である** ※三宮真智子_学びのメカニズムを学べば、人は上手に学習できる_RMS Message(リクルートマネジメントソリューションズ) 37_201411 https://www.recruit-ms.co.jp/research/journal/pdf/j201411/m37_all.pdf
- **学びとは**：学びといっても大げさなものではなく日常生活(学校、会社、家庭)の中に「学び」は転がっている。課題解決する過程が学び。達成感を得て愉しく成長する。「京都に行きたい～文化的で静かでおいしい食事」「家を建てたい～資金準備、希望の家、FM」「子犬を飼いたい～セラピー、運動、経費、飼い易さ」など。
- **学びとは**：“生活の中の学びが発展する、複雑な社会にあって、国や専門家任せにしないで、自分たちのことは、納得できる形で、自分たちで決め、自分たちで解決する。一人ひとりが生きていくなかで必要なことを調査し、自分たちにとって必要なことを見極め、具体的な解決策を実行する。自分が暮らす町の子育て支援の課題、子どもの貧困、マンションの生活騒音の問題、日本における独居老人、住んでいる市の農業は現在どういう問題をかかえているのか、などがある。また、論文や本を批判的に読むクリティカルリーディングとして、書かれたものの「信頼度」を意識し、書かれていることが真実かどうかを評価・判断することが必要” ※宮内泰介；上田昌文『実践 自分で調べる技術』岩波新書 新赤版 1853, 2021, pp.3-7
- **シチズンシップ(市民的行動)教育が大切と**、小学校の教頭先生が図書館協議会の席で話されていた。
- **インターネット世代との断絶**：メディアリテラシーが、インターネットやスマホによって抜け落ちた。
 - 身近で学びにも直結する新聞から学びの一面を考える。新聞の全体構成は学術論文に通じる
 - 新聞の全体構成：全体は、一面、総合面、政治・経済、国際、当初、暮らし、スポーツ、地域、社会、番組、広告までの全分野。紙面は、見出し、リード、本文など。掲載面で記事の分野が分かり、見出しの大きさと重要性が分かる。記事の時制は、時事から過去、将来分析まで全方位。
 - 新聞の発行部数と一世帯当たり部数の推移
 - 新聞に触れる機会が家庭にない～新聞の契約減少～20年間で4割減(5400万部から3300万部へ2000万部)、1世帯当たりの部数は半分(1.13部から0.57部)。



(日本新聞協会 <https://www.pressnet.or.jp/data/circulation/circulation01.php> から作成)

- **学びの3スキル**: 義務教育時代に身につけることで、理想的には学びの愉しさが理解できる。課題解決授業, 総合学習, 国語や社会などの教科の「2コマ+2課題」で身につく。
- **情報探索スキル**: 環境モニタリング(体感: 熱い, 雰囲気が良い), 情報との遭遇(無意識: セレンディピティにも問題意識が必要), 課題解決(意識的: 戦略的な筋道で解決に導く)
- **情報リテラシー**: メディアの特性(新聞は, 見出しの大きさを重要度が, リードで概要が分かる), 学術論文の要約(探して, 読んで, 評価して, 要約を書く)には, リテラシーの全てがある。探索によって, テーマに関する論文の広がり分かる。テーマの絞込み・拡大, 時間・地理軸の修正, 適正ヒット件数の見極め。要約するためのヨミは精読・理解につながる。評価のためには自分の知識やほかの情報源を動員しなければならない。要約には相手に伝わる内容を心掛けることが要求される。学術論文は構成が構造的 [IMRAD: Introduction, Methods, Results And Discussion] で内容が理解しやすい。
- **コミュニケーションスキル**: 考えや意見を1つに集約するグループワーク(60分) = 2人(5分) → 2人+2人(5分) → 4人+4人(10分) → 集約結果の板書 → 集約意見の共有

③ ONLINEでの閲覧席の空席確認システム
 ・PCの音声読み上げ機能
 ・ユーザーフレンドリー
 「効率的な図書館利用」 全体的

障がい者でも使いやすいPCの音声読み上げ機能をつけるなどする。
 携帯で簡単に閲覧席の空席状況を確認できるようにする。

④ 図書館内での電子書籍で絶版図書を
 読めるようにする。図書館蔵書データベース
 書店・古書店の差/資料提供
 絶版図書が読める!

蔵書内で少数しかない絶版図書を読みたい時に、
 他人に借りられてしまっている、電子で読める。
 (ただし、図書館内のWi-Fi接続)

図書館と出版者の連携の強化
 読書 ← 指原: 新聞・雑誌・テレビ
 貸し出しと
 出版会社

2019.11.28 2F
 導入したい
 情報技術
 「キャッシュコピー」
 交付果

● 学びの3スキルの効果

- 学び方をメタ認知できていれば、デバイスやメディアが変わっても対応できる。しかし、インターネットとスマホでは、デバイスやメディアで誘導され、要注意。パソコンよりスマホは画面が小さく、現在はスマホが主流で、メディアはWeb上のニュースのまとめサイトやSNSが大変よくつかわれて、フェイクニュースや犯罪につながっており、メディアリテラシーが子どもから大人まで必須のスキルとなっている。Yahoo!ニュース トピックスの14.5文字見出し(見出しを認識する速さと、記事内容を正確に理解できるかどうか <https://www.watch.impress.co.jp/docs/news/1318439.html>)から閲覧する。
- 情報の評価：1)知りたかったことが分かる，2)自分の見解と一致している，3)知らなかった知識を得る

● 資料を蓄積して提供する図書館機能

- その究極の形態として「国立国会図書館登録利用者カード」の威力は、頻繁に使うものではないが、国民には知られていない。地域の公共図書館が情報リテラシー支援を行うべき。



- はせがわ とよひろ プロフィール -

1955年 9月 新潟県新潟市生まれ

1979年 4月 鶴見大学勤務～2016年 3月退職～現在に至る

1996年 9月 Webサイト開設「学びを愉しむインターネット」

2000年 4月 日本図書館協会出版委員～2011年 4月委員長(継続)

2009年 3月 慶應義塾大学大学院文学研究科 博士課程 図書館・情報学専攻(単位取得退学)

2014年 4月 藤沢市図書館協議会委員～2018年 4月委員長(継続)

2016年 11月 図書館笑顔プロジェクト・代表(継続)

E-mail hasegawa@toyohiro.org

Web Site 学びを愉しむインターネット <http://toyohiro.org>

